

「保険診療に最もなじむ 定位放射線治療『ガンマナイフ』の 新モデルで攻勢をかける」

最新型の「ガンマナイフ」を開発されたそうですね。

渡辺 はい。当社は現在、最新型のガンマナイフ「パーフェクション」のプロモーションを行っています。パーフェクションは、従来のガンマナイフモデルで自動化できる余地があった機能をすべて自動化しました。また、現在の適応範囲は脳だけですが、近い将来の頭頸部までの適応拡大を見込んで設計したところが最大の特長です。ご存じのようにガンマナイフは、さまざまな角度から放射線を病巣の一点に集中させて治療する定位放射線治療のマザーマシンです。名前の由来は、ガンマ線を用いてまるで外科用ナイフで病変部位を切り取るように処置できることから、こう呼ばれています。脳深部の病巣に対する低侵襲な放射線治療として、1968年にスウェーデン・カロリンスカ大学の故ラーズ・レクセル教授によって開発されました。パーフェクションは、改良を積み重ねて実現した21世紀型ガンマナイフといえます。

乳がんや・肺がんなどの脳転移症例で多くの実績

☑ガンマナイフが有効な症例や疾患にはどのようなものがありますか。

渡辺 ガンマナイフは悪性脳腫瘍をはじめ、聴神経腫瘍や下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、松果体腫瘍、髄膜腫などの良性脳腫瘍や、脳動静脈奇形などの脳血管障害などが治療の対象です。とりわけ最近では、乳がんや肺がん、前立腺がんなどの転移性悪性脳腫瘍の治療に積極的に用いられ、症状の改善やQOLの維持・向上に大きな力を発揮しています。ガンマナイフの治療症例では、67.9%を悪性脳腫瘍が占め、良性脳腫瘍が22.4%、脳血管障害が9.6%と続いています(その他0.1%)。いまや年間50万人以上が、新たにがん罹患しています。どこでも、誰もが、同じような最先端のがん治療を受けられるようにすることを目的に、2007年4月「がん対策基本法」も施行されました。転移性悪性脳腫瘍に優れた治療効果が見込めるガンマナイフは、ますます活躍の場が広がっていくと期待されています。

☑ガンマナイフは、臨床現場や病院にとっても大きなメリットが得られると聞いています。具体的に教えてください。

渡辺 ガンマナイフは欧米をはじめ、アジア、中東など全世界で259台が稼働しています。日本では51台が医療施設に設置され、国内症例数は11万6119件に達しています(07年末現在)。他の定位放射線治療にはない世界基準の治療ガイドラインが確立している点が信頼につながっています。ガンマナイフの設置台数は、最近の10年間で年を追うごとに増加しています。また

がん治療の3大療法の一つである放射線療法をけん引するのは、高精度の定位放射線治療だ。中でもガンマナイフは、治療実績・設置台数ともに、他の定位放射線治療装置を圧倒する定番装置である。最近、新モデルを発売したエレクタ社の渡辺英雄社長に、これからの意気込みなどを聞いた。

医用機器メーカーのトップに聞く 渡辺英雄

エレクタ株式会社代表取締役社長



渡辺英雄(わたなべ・ひでお)
1951年東京都出身。75年明治大学工学部機械工学科卒業。同年4月株式会社守谷商会入社。86年ジーイー横河メディカルシステム株式会社入社。MR事業部長、GEメディカルシステムアジアCTマーケティング部長、サービス副本部長を歴任。2003年株式会社フィリップスメディカルシステムジャパン入社。07年7月エレクタ社入社。現職。

治療技術の向上を反映して、1施設当たりの平均治療実績も年間298件に上っています。一番多いところでは年間683件にも達した施設もありました。高精度な先進技術と汎用性が認められてガンマナイフが保険適用された結果、脳深部の病巣への治療がさらに容易となり、患者の症状に応じて開頭手術や放射線全脳照射と、ガンマナイフを組み合わせたさまざまな治療法を患者さんに提供できるようになりました。一方、ガンマナイフを導入している病院は、高度先進医療施設として他の医療機関からの紹介が増えることはもちろんですが、ガンマナイフの存在が地域の病診連携を推進するテコになっています。さらに、ガンマナイフの治療対象者だけでなく、他領域の患者の紹介の増加にも貢献しているようです。ガンマナイフの1症例あたりの診療報酬は合計約5万点です。年間200例近い症例を施すと、約1億円近いキャッシュフローが見込めます。病院を運営していくうえで大きな力になるのではないのでしょうか。

☑ガンマナイフを導入する際は、どのようなサポート態勢が受けられるのでしょうか。

渡辺 当社では新たにガンマナイフ治療を始められるドクターに対して、充実した研修サポートをご提供しています。海外や国内において1～2週間のトレーニングプログラムを設けています。治療を開始する直前にはガンマナイフの治療に精通した医師や医学物理士などを派遣し、実習トレーニングを行って初期治療をお手伝いします。また2年に1回のペースで、臨床系医学会にはぼ準じるガンマナイフユーザーズミーティングを国内で開き、臨床成績や最新の治療法などについて情報交換・検討する臨床研究会を設けています。さらに国際的にも2年に1回、「ジェネラル・ミーティング・オブ・レクセルガンマナイフ・ソサエティ」を開いています。今年の5月にはカナダ・ケベックで開催しました。

三叉神経痛・パーキンソン病治療に期待

☑ガンマナイフの今後の課題と展望を教えてください。

渡辺 ガンマナイフは三叉神経痛やパーキンソン病、難治性てんかんなど機能的脳疾患に対する新たな有望な治療法として熱い視線が寄せられています。すでに三叉神経痛に関しては日本脳神経外科学会の推薦もいただいております。近い将来に適応拡大が認められ、保険診療を開始できるようになることを目指しています。パーキンソン病では国内6施設でトライアルが行われており、振戦が抑えられるなど劇的な治療効果が認められています。年内には研究論文としてまとめられ発表される予定です。

ガンマナイフの可能性は大きく広がっています。新たな適応拡大によってさらに多くの疾患の治療に役立てられ、医療の向上に貢献できればと思っています。